

## 「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム」 東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院 2016年度夏期海外短期留学生(サマーインターンシップ)の募集

「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム」東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院では、海外短期留学プログラム(インターンシッププログラム)を実施します。今年度は留学先として主に以下の機関を予定しています。

### ・MIT、ハーバード大、MGH等で構成されるCIMIT (Center of Integration of Medicine and Innovative Technology)

内容:ボストン地区で開催される夏期研修プログラム(HST summer institute) Biomedical opticsコース

現地HST主催のコースに合流し、各自いずれか1研究室に所属する形で、主にバイオイメージングをテーマとして9週間の実習(研究活動・発表、セミナー参加)を行う。

対象者:GPLLIコース生

予定数:2名程度

期間:2016年6月上旬~8月上旬(2か月、通常6月10日頃から8月10日頃)



### ・The University of Texas MD Anderson Cancer Center (UTMDACC) (<http://www.mdanderson.org/>)

内容:テキサス州ヒューストンにある、がんに関する治療、研究、教育、予防を専門とする世界でも有数のがんセンター。その傘下にはGraduate School of Biomedical Sciencesも有し、がんに関する臨床研究、橋渡し研究、生物医科学に関する基礎研究で広く知られている。本プログラムでは同センターに所属するいずれかの1研究室に所属し、その研究室の研究テーマにより8週間程度の実習(研究及び研究発表)を行う。

対象者:GPLLIコース生

予定数:2名程度

期間:2016年7月~8月(2か月、時期については先方と調整後決定する。)



▪ **Clemson University Department of Bioengineering**

(<http://www.clemson.edu/ces/bioe/index.html>)

内容: サウスカロライナ州クレムソンにある、創設50年の歴史の中数々の技術を生み出したバイオエンジニアリング学科。現在も多くの教員、研究者が大学院生、学部生とともにバイオマテリアル、再生医療の基礎研究 および教育に従事している。2011年にはGreenville Hospital Systemsとの提携によりClemson University Biomedical Engineering Innovation Campus (CUBEInc) を設立し医師との共同研究、臨床への応用のための橋渡し研究を展開している。

本プログラムでは同学科に所属するいずれかの1研究室に所属し、その研究室の研究テーマにより8週間程度の実習(研究及び研究発表)を行う。

対象者: GPLLIコース生

予定数: 4名程度

期間: 2016年5月下旬～8月上旬(約2か月、春までに詳細は決定)



▪ **Columbia University, Columbia Center for Translational Immunology**

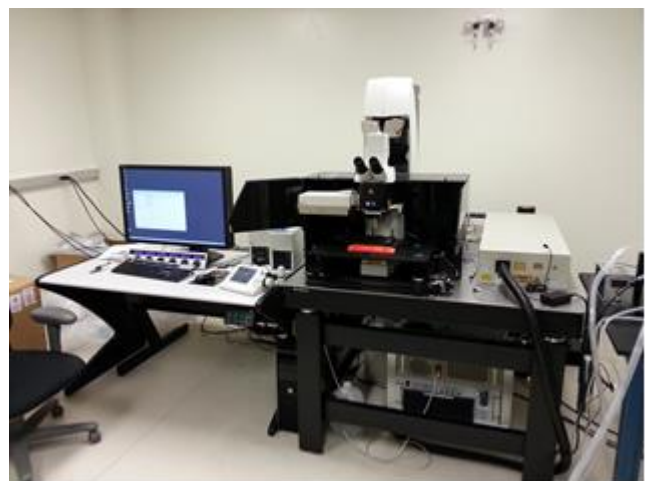
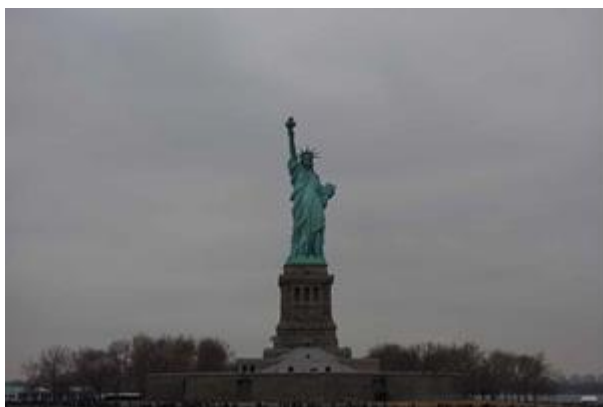
(<http://www.cumc.columbia.edu/ccti/about-ccti/mission-statement>)

内容: ニューヨークマンハッタン北部にあるコロンビア大学Columbia Center for Translational Immunologyの藤崎譲士研究室に所属し、免疫学に関する研究を行う。主な内容として, in vivo two-photon/confocal microscopyを用いた幹細胞ニッチの可視化、免疫機構調節メカニズムの解析を行う。

・対象者 GPLLIコース生

・予定数 1-2名

・期間 2016年夏-秋期(2ヶ月, 時期については先方と調整後決定する。)



• **Eisai Inc. / Andover Site (Research Laboratory)**  
(<http://us.eisai.com/wps/wcm/connect/Eisai/Home/>)

内容: Eisai Incは東京に本社を置くエーザイ株式会社の子会社で1995年にアメリカに設立され、特に脳疾患治療薬の研究開発における拠点研究所である。選ばれた学生は、独立したテーマまたは研究所で進められている開発テーマに参加する形で、8週間の実習(研究活動・発表、セミナー参加等)を行う。

対象者: GPLLIコース生

予定数: 2名程度

期間: 2016年夏-秋期(2ヶ月、時期については先方と調整後決定する。)



• **École Polytechnique Fédérale de Lausanne (EPFL)** (<http://www.epfl.ch/>)

内容: レマン湖の北岸に位置するフランス語圏であるローザンヌにあり、スイス連邦工科大学の一つ。基礎研究と工学研究を中心に250以上の研究室や研究グループがあり、ヨーロッパで最も革新的で生産的な研究機関の一つ。Life Science系のいずれかの1研究室に所属し、その研究室の研究テーマにより8週間程度の実習(研究及び研究発表)を行う。

対象者: GPLLIコース生

予定数: 2名程度

期間: 2016年7月~8月(2か月、時期については先方と調整後決定する。)



・Ludwig Maximilians University Munchen

([http://www.cup.uni-muenchen.de/dept/ph/pharmabio/e\\_wagner.php](http://www.cup.uni-muenchen.de/dept/ph/pharmabio/e_wagner.php))

内容:ドイツ・バイエルン州ミュンヘンにある州立大学。“Nanoinitiative Munich NIM”クラスターの中核的な機関であり、ナノDDS分野で世界的な研究拠点。LifeScience系のいずれかの1研究室に所属し、その研究室の研究テーマで実習(研究及び研究発表)を行う。

対象者:GPLLIコース生

予定数:2名程度

期間:2016年夏-秋期(2ヶ月、時期については先方と調整後決定する。)



・Uppsala University (<http://www.uu.se/en/>)

内容:北欧最古の大学で、北部ヨーロッパの最も権威ある高等教育・研究機関の一つ。最先端の材料科学研究が行われているオングストローム研究所、遺伝・癌・免疫分野の基礎からトランスレーショナル研究が行われているルードベック研究所、生命科学に関するヨーロッパ最大の研究拠点のひとつであるバイオメディカル研究センター内のいずれかの1研究室に所属し、その研究室の研究テーマにより8週間程度の実習(研究及び研究発表)を行う。

対象者: GPLLIコース生

予定者数:2名程度

期間:2016年7月~8月(2ヶ月、時期については先方と調整後決定する。)



この他にも希望の研究機関がある場合は、考慮するので申し出てください。

参加者に対し、旅費を支給する。(往復航空券に加え45万円を上限とした滞在費。訪問先の条件によって減額の可能性があります。)

- 往復航空券は成田空港或いは羽田空港から訪問先の大学に最もアクセスの良い飛行場までを、事務局が購入して支給する。
- 参加者は、本留学の前後に私的旅行を加えることはできない。
- あらかじめ定められた期間の変更は、指導教員、留学先指導者、留学先プログラム運営担当者、及びGPLLI運営委員会の四者全ての事前承認がない限り認めない。
- 各自海外旅行保険と東京大学が指定する海外安全危機管理サービス(OSSMA)に加入する。

応募方法: 以下の書式を、ヤーマスあてにメール及び同内容を印刷したものにて送付のこと

(jarnes@cni.t.u-tokyo.ac.jp)。なお、希望の留学先を明記すること。

- (1) 申請書 (指導教員の署名必須)
- (2) A4用紙1枚以内の英文による意志表明書状 (Letter of Intent)
- (3) A4用紙1枚以内の英文による指導教員の推薦書
- (4) 英文CV (もしあれば業績リスト及び主要な別刷のPDFファイルを含む)

応募締切: 2016年1月30日(土)

※ 申し込みの際は、指導教員とよく相談のうえ申し込むこと

選考: 受理した書類は、順次、書類選考、面接等により採用を決定する。TOEFLまたはTOEICスコアなどの英語検定成績を審査上考慮することがあるので、証明書があれば提出のこと。